

登録コード	F3B60940	開講年度	2026				
授業科目	卒業研究				担当教員	河村 隆 他	
英文授業名	Graduation Study				副担当	渡辺 健太郎・照月 大悟	
単位数	6	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	
講義室				授業形態	実験	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	2 2 Fカリ						
	【2022年度以前カリキュラム対象】 ヒトと環境にやさしい機械を創造するための専門的知識と課題解決能力				⇔	卒業研究を通じて、今までになかった機械を設計、製造、制御するための専門知識と問題解決能力を習得する。	
	【2022年度以前カリキュラム対象】 コミュニケーションおよび情報収集・発信能力				⇔	卒業研究中間発表、卒業研究発表会を通じて、コミュニケーション能力を磨く。また、卒業研究論文の執筆を通じて、情報収集能力、サイエンスライティング、アカデミックライティングを習得する。	
	【2022年度以前カリキュラム対象】 課題解決に向けて自主的・継続的に学習・計画・実行できるデザイン力と実行力				⇔	まだ解かれていない問題や新たな素材や機械の開発を行うことで、課題解決能力を実践形式で身につける。	
	2 4 Fカリ・機械部'ット・機械学コース, 2 3 Fカリ・機械部'ット・機械学コース						
	【2023年度以降カリキュラム対象】 課題解決に向けて自主的・継続的に学習・計画・実行できる能力を有する				⇔	まだ解かれていない問題や新たな素材や機械の開発を行うことで、課題解決能力を実践形式で身につける。	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	各研究室において、当該研究室の研究ポリシーなどに従って、卒業研究の内容・方法・スケジュールなどが提示される。 (1)研究テーマについては、指導教員から提示され選択する、あるいは、指導教員とのディスカッションにより合意を得て決定される (2)研究の遂行については、指導教員の指導のもとで計画・実行・評価・再計画を繰り返して、研究目標の達成を目指す。 (3)卒業研究では、総合的な研究の実践が求められる。その内容は研究テーマに関する情報の収集・分析と定着、課題の認識と解決策の模索、実験の計画と実行、結果の整理・評価とディスカッション、成果の取りまとめなど多岐にわたり、それらを自ら行うことが求められる。 (4)進捗状況の報告が定期的求められるので、常に状況を整理してまとめておくこと。各研究室の定期的な報告会・ミーティングなどのほか、機能機械学コースとして前期には卒業研究中間発表会、後期には卒業研究発表会での発表を義務付けている。 (5)卒業研究のまとめとして卒業論文をコースの定めた方法により提出する。卒業論文は体裁を守り、指導教員の許可を得たうえで、期日までに指定の方法で提出すること。 これらは指導教員との十分なディスカッションの上で、指導教員の助言と指導のもとで実施される。						
(5)授業計画	卒業研究の内容・方法・スケジュールなどは、研究室ごとにあるいは研究テーマごとに定められる。卒業研究は、上記のように指導教員との十分なディスカッションの上で、指導教員の助言と指導のもとで実施される。 卒業研究は、実践型・目標志向型の科目であり、受講生には積極的な関与が求められている。						
(6)成績評価の方法	・前期の卒業論文中間発表会では、コース教員全員の参加のもと卒業研究生の発表について各々評価を行う。中間発表としての水準に満たないと評価された場合には留年が確定する場合がある。 ・後期の卒業論文発表会では、コース教員全員の参加のもと卒業研究生の発表について各々評価を行う。卒業研究としての水準に満たないと評価された場合には、不合格となる。不合格となった場合、追加試験を行う場合がある。 ・発表会での発表についての評価は、研究テーマ・内容に対する理解度、レジュメの構成及び内容、プレゼンテーション能力（発表・質疑応答の内容・態度）について採点がなされる。最終的な評価は、指導教員を含むコース全教員による採点により総合的に評価する。 ・前述のように卒業研究は実践型・目標志向型の科目であり、積極的関与なしには単位取得(合格)は望めない。積極的関与の指標は、テーマに対する理解度と研究成果だけでなく、研究テーマに向き合い、取り組んだ積算時間も重要である。客観的な視点によって卒業研究に取り組んでいる時間が明らかに不足する場合には当然不合格となる。						
(7)成績評価の基準	秀：設定された研究のゴールに対して期待以上の成果を出した場合 優：設定された研究のゴールに対して期待された成果を出した場合 良：設定された研究のゴールに対して期待された成果に及ばなかったが、本授業のねらいの内容を体得していると認定された場合 可：「良」の場合を除き、設定された研究のゴールに対して期待された成果に及ばなかった場合 不可：設定された研究のゴールに対して期待された成果にたいして不十分な結果しか出せなかった場合						
(8)事前事後学習の内容	研究室の指導教員の指示に従うこと。 常に、教員とコミュニケーションを取る（報告、連絡、相談）こと。						
(9)履修上の注意	プレゼンテーション、研究成果、日頃の研究への取り組み姿勢が評価の対象となる。 指導教員と常にコミュニケーション（報告、連絡、相談）を取ること。						
(10)質問,相談への対応	指導教員と十分なディスカッションを行うこと。 場合によっては、チュータ教員・コース長・学務委員に相談してもよい。						

(11)学生へのメッセージ	卒業研究は実際に研究活動を行うという点で、3年生までの授業による勉学、学習と大いに異なります。研究における創意、工夫、自主的に問題解決を図る能力等が重要視されるとともに、卒業研究を通じてこれら能力が養成されます。大学から実社会へ移行する前の技術の実践を学ぶ大事な時期です。
(12)その他	特になし。
【教科書】	各指導教員の指示による。
【参考書】	各指導教員の指示による。